

2) 外出時の不便・不安

高齢者の不便・不安

- 「交通機関の便数」と「交通事故」が多い傾向にあるが、その他、歩行移動の問題を指摘する意見（夜間照明、歩道の有無・狭隘、交通機関まで距離、道路の段差など）も多い。

富山県一県のデータであることから、北陸圏の共通課題とは言い難いが、公共交通機関の利便性向上や歩行空間の充実が課題として挙げられる。

「高齢者生活意識調査」より

外出時の不便・不安について

- 外出時の不便・不安は、「公共交通機関の便数」と「交通事故」が多い。
- 全国の傾向（平成 16 年に総理府が実施した「高齢者の日常生活に関する意識調査」）と比較すると、全国では、道路の段差等が最も高く、ついで交通事故に対する不安、公共交通機関が不便、路上の違法駐車や放置自転車など、トイレが少ない、街路灯が少ないの順となっている。したがって、富山県では、公共交通機関の不便や夜間照明に対する不満が相対的に高い傾向があると考えられる。

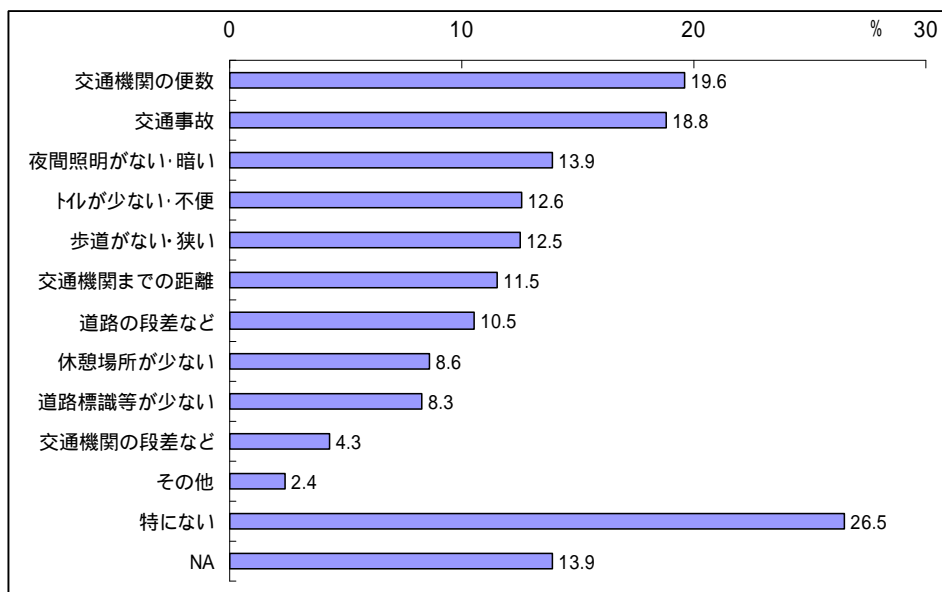
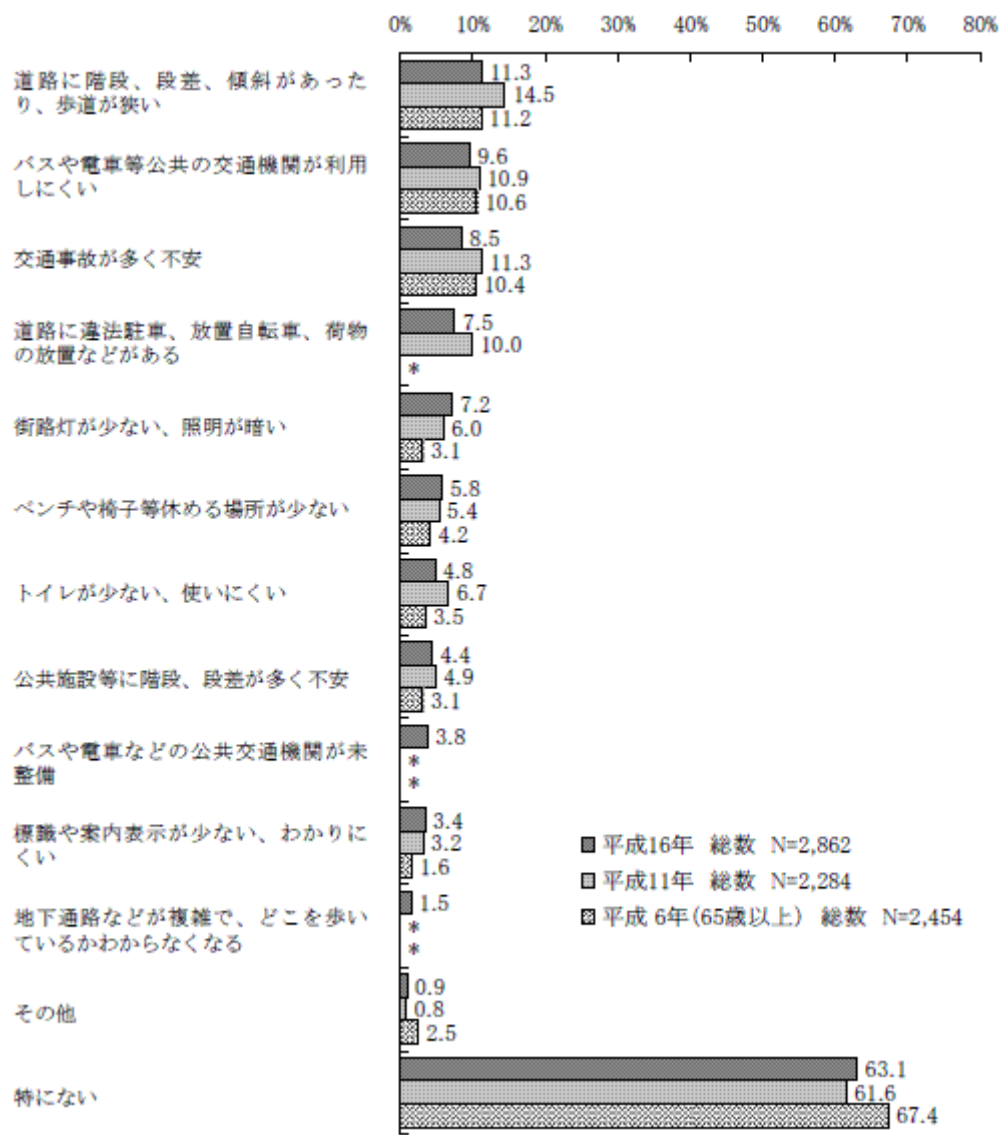


図 4-25 外出時の不便・不安



【出典】高齢者の日常生活に関する意識調査（平成16年12月推計）

図4-26 外出時の障害

3) 雪に関すること

雪に関すること

- 屋根の雪下ろし等は、家族内で実施している実情がうかがえるととも、屋根の雪処理を心配する人が多い。

雪処理を家族（身内）で対処するには限界があることから、地域コミュニティの活用や広域的なサポート体制の充実が望まれる。

「東京大学との共同による集落の現状に関するアンケート調査」より 集落内のお年寄りだけの世帯における屋根の雪下ろしや除雪について

問11 集落内のお年寄りだけの世帯では、家屋の雪下ろしや除雪を主にどのように行っていますか。

- (1.お年寄り自ら実施 2.近所の人を実施 3.子どもが帰省して実施 4.森林組合などに委託して実施
5.ボランティア（集落外の）が実施 6.その他 7.分からない)

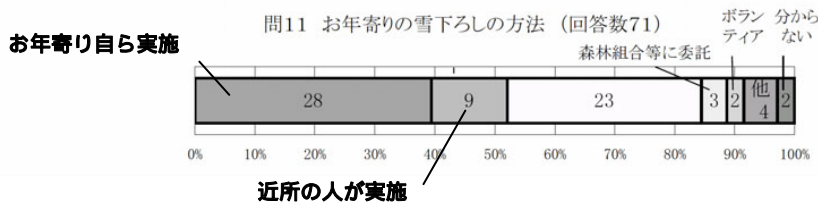


図 4-27 屋根の雪下ろしや除雪の実態

「中山間地高齢化集落生活実態アンケート調査結果 報告書」より

雪に関係する心配なこと、困っていること、不満に思っていることについて

- 全体では第1位が屋根雪の処理で40%、第2位が玄関先の雪処理で31%、第3位からは少なくなり公道の除雪が14%、第4位が孤独感で8%となっている。

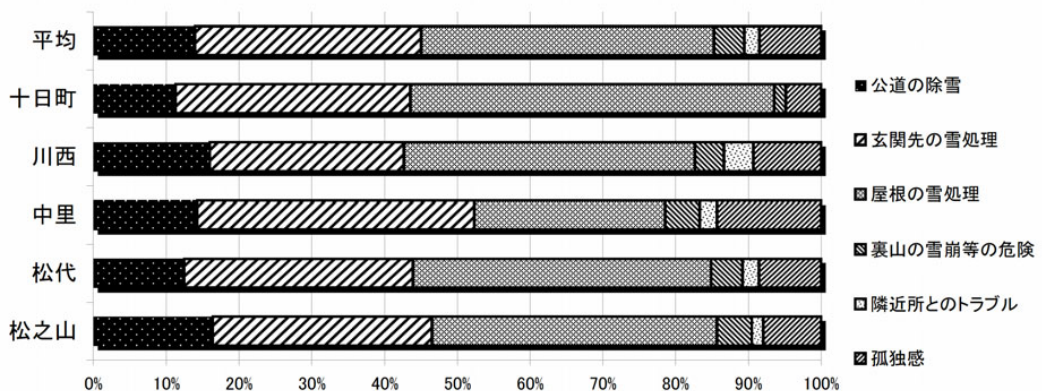


図 4-28 雪に関係する心配なこと、困っていること、不満に思っていること

4) 耕作放棄地

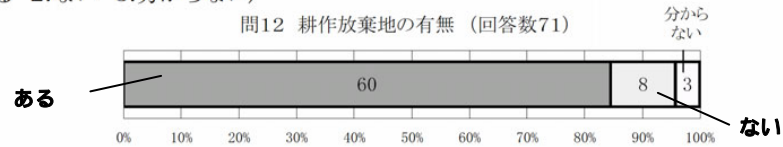
耕作放棄地

- 中山間地域には、耕作放棄地があり、災害発生や鳥獣被害を懸念する人が多い。
- ボランティア農作業・清掃作業については、態度を保留する傾向が強い。
耕作放棄地の対処は、派生する課題の内容からも重要であり、住民に気を使わせない方法での受け入れ方法を確立する必要がある。

「東京大学との共同による集落の現状に関するアンケート調査」より

集落の田畑における耕作放棄などによる荒廃の進展について

問12 集落の田畑で耕作放棄などにより荒廃が進んでいるところがありますか。
(1.ある 2.ない 3.分からない)



問13 問12で「1.ある」と答えられた方について、農作業を請け負ってくれる人がいた場合、農地を復活させるため、農作業を外部に委託することは可能であると考えられますか。

(1.可能 2.不可能 3.分からない)

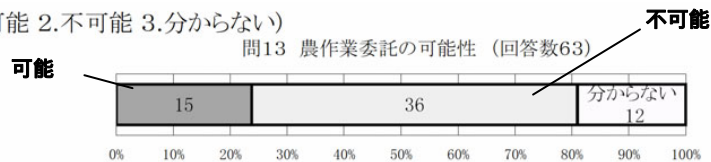
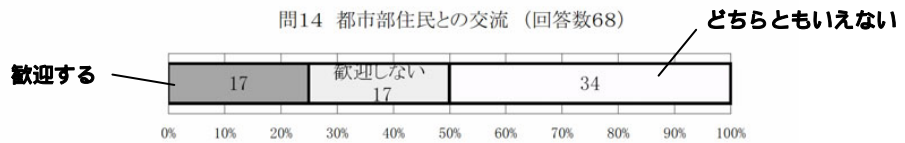


図 4-29 集落の田畑における耕作放棄などによる荒廃の進展

都市部の住民が集落に数日間宿泊し、ボランティアで農作業や清掃作業などを手伝うことについて

問14 都市部の住民が集落に数日間宿泊し、ボランティアで農作業や清掃作業などを手伝ったりすることについて、どう思いますか。

(1.歓迎する 2.歓迎しない 3.どちらともいえない)



問15 問14で「2.歓迎しない」と答えられた方について、その理由は何ですか。

(1.受入が大変 2.作業技術が未熟 3.けがが心配 4.気を使う 5.その他)

問15 都市部住民との交流を歓迎しない理由 (回答数24)【複数回答】

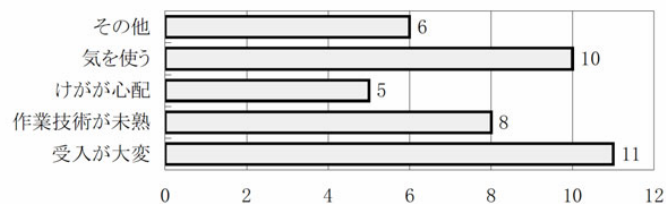


図 4-30 ボランティアによる農作業や清掃作業などの手伝いについて

「中山間地高齢化集落生活実態アンケート調査結果 報告書」より

耕作放棄地について

- 耕作放棄地の有無については、回答世帯の65%に存在
- また、耕作放棄地の問題についても聞いており、1位は「保水力の低下や水路の荒廃などにより、災害の発生が懸念される」であり、次に「鳥獣による作物への被害」を懸念されている。また、土地が荒廃することによって「境界が分からなくなる」ことも問題としている。

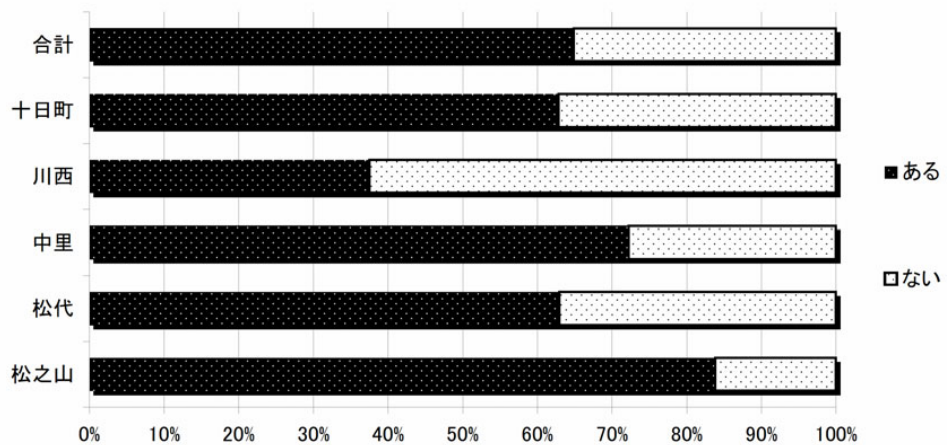


図 4-31 耕作放棄地の現状

5) 農作物への鳥獣被害

鳥獣被害

- 中山間地域では、鳥獣被害を経験した人が多く、また耕作放棄地と相俟って、鳥獣被害を懸念する人が多い。
- 「お～イノシシ～team4429 と考えるこれからの鳥獣被害対策～」(福井県立大学 team4429 とその仲間たち編)によると、獣害の原因が増加した背景には、次に示す複数の原因が重なり合っていると考えている。
 - ・(先にも述べた)耕作放棄地の増加
 - ・エネルギー転換による、里山を利用する機会の減少
 - ・暖冬
 - ・ハンター人口の減少
 - ・人間の影響減少
 - ・農作物被害拡大 耕作意欲低下 耕作放棄地の増加 といった悪循環
- また、鳥獣被害のない里づくりへの取組として、下記を示している。
 - 1.地域住民による自主防衛組織の編成
 - 2.電気柵の効果的な設置
 - 3.わな・檻による捕獲上記の書籍にも記載されているが、今後、鳥獣被害対策を進めていくためには、農林業関係者や農村部住民だけではなく、被害地域の住民、さらに地域を越えた協力が必要である。

「東京大学との共同による集落の現状に関するアンケート調査」より 農作物への鳥獣被害の有無について

問16 農作物への鳥獣被害はありますか。
(1.ある 2.ない 3.分からない)

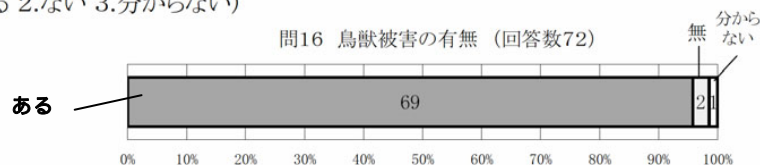


図 4-32 農作物への鳥獣被害

6) 日常生活における不安等、満足度

日常生活における不安等

- 地域、社会的な事項としては、主に「自然災害」、「公共交通」、「救急医療」、「雪対策」、そして「鳥獣被害」が挙げられる。
- また個人的な事項としては、「後継者問題」、「足の確保」、そして「一人暮らしの不安」が上げられる。

個人的な事項についても、地域・社会的な解決が可能であることから、高齢者を取りまく環境について、個々の問題のみを取り扱うのではなく、関連・波及する事柄を含め、また広域的な解決方策の有無・必要性を検討しながら、総合的に展開を図っていく必要がある。

「中山間地高齢化集落生活実態アンケート調査結果 報告書」より

社会生活で困っていることについて

- 全体では、「自然災害」が 27%、次いで「交通の便が悪い」が 24%、「携帯電話が通じない」が 17%、「郵便局・JAがない」が 16%となっている。

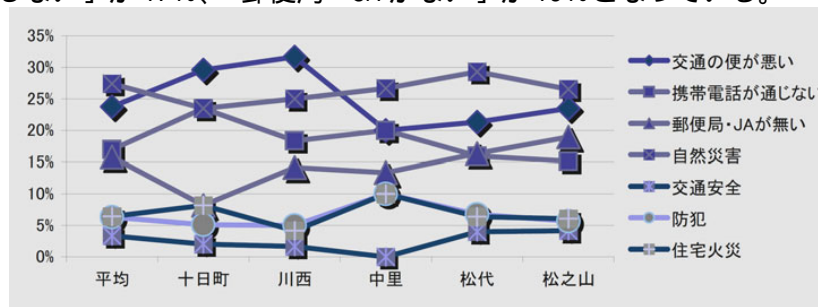


図 4-33 社会生活で困っていること

日常生活で困っていることについて

- 高齢者一人暮らし世帯で最も困っていることは、急病時の不安であり、病院、診療所が遠いことから来ている不安だと思われる。また、18%の世帯が食事づくりや洗濯などの日常生活に対する不安を訴えており、体力、気力の低下が進んでいることを表している。高齢者の夫婦世帯になると、いつかは一人暮らしになってしまうということに対する不安が 38%で最も多くなっている。高齢者のいない世帯でも一人暮らしになることへの不安や自動車が運転できなくなることへの不安の割合が高く、世帯の高齢化が進行していることがうかがわれる。

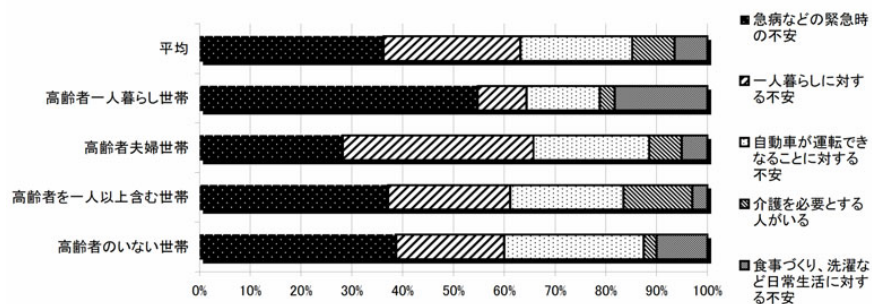


図 4-34 日常生活で困っていること

「東京大学との共同による集落の現状に関するアンケート調査」より

集落で困っていることや不安に思うことについて

問 22 集落で困っていることや不安に思うことについて、該当する項目にすべて をご記入ください。うち、特に困っているものについて、1つ をしてください。

(住民生活：集落外への移動手段がない、子どもの通学が困難、医療機関が近くにない、食料品などが買えるスーパーが近くにない、冬季における除雪が困難、空き巣など犯罪の増加、空き家などの増加やその周辺環境の悪化、後継者がいない)

農林業：用排水路・ため池等の維持が困難、耕作放棄地の増大、鳥獣害・病虫害の発生、不在地主所有の山林の増大

集落活動：清掃作業等の集落活動の低下、冠婚葬祭などの日常生活の支え合いの低下、伝統的祭事等の衰退

施設維持：集会場・公民館等の維持が困難、道路・農道・橋梁の維持が困難、上下水道等の維持が困難、神社・仏閣等の維持が困難

自然環境：森林の荒廃、河川・地下水等の流量の変化や水質汚濁、ゴミの不法投棄の増加

災害：土砂災害の発生、洪水の発生、自主防災組織の機能低下

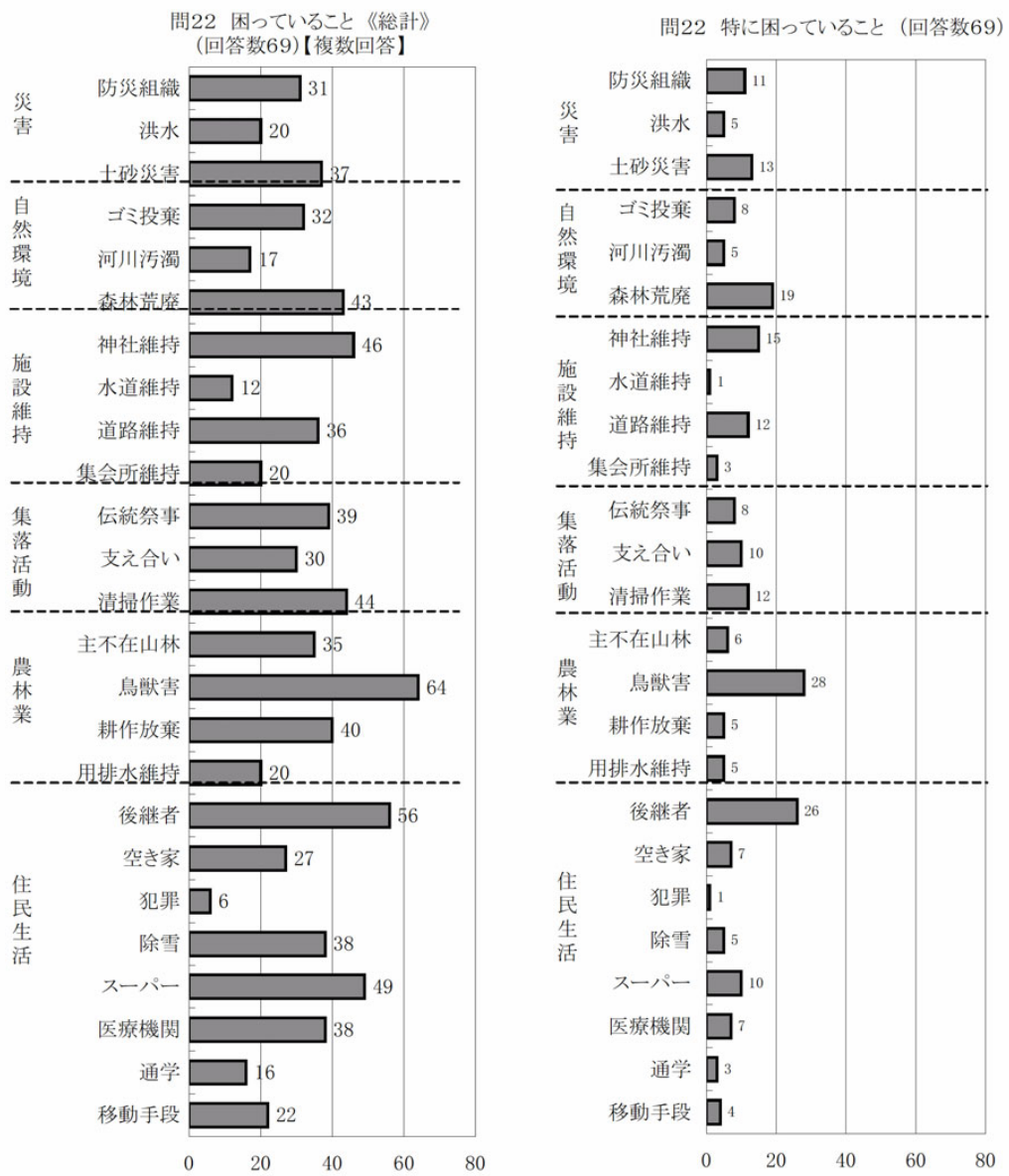


図 4-35 集落で困っていることや不安に思うこと

「高齢者生活意識調査」より

全体的傾向について

- 安全さは、全項目で70%前後が普通以上の評価をしており、暮らしやすい北陸圏の特徴が現れている。

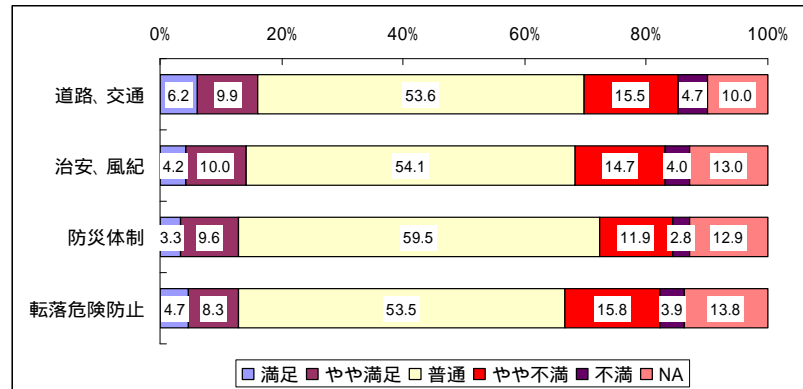


図 4-36 全体的傾向（満足度）

買い物・公共交通機関について

- 買い物については74.6%が普通以上の評価をしている一方、公共交通機関について54.1%となっており、日常生活における移動手段としての公共交通機関の利便性向上が求められている。

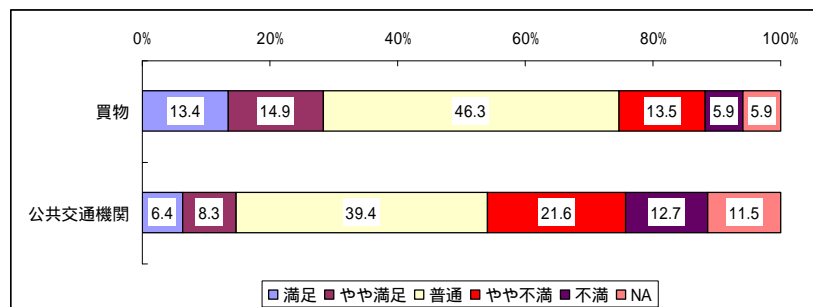


図 4-37 買い物・公共交通機関（満足度）

生活環境の快適さについて

- 生活環境の快適さでは、住宅についての満足度は高く、冬期の道路除雪についての不満度が高い。

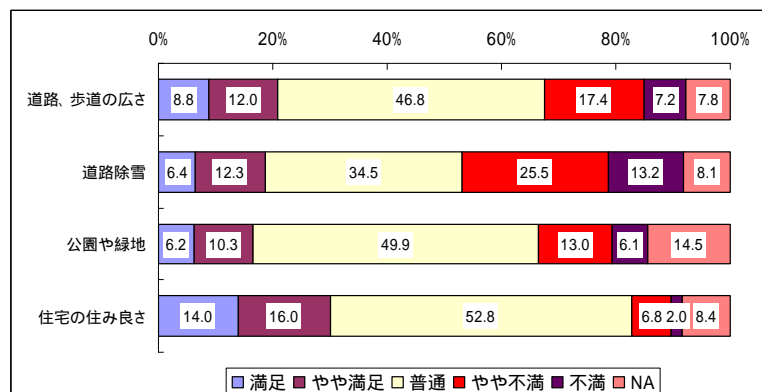


図 4-38 生活環境の快適さ（満足度）

「高齢者生活意識調査」より

医療・福祉関連について

- 医療機関や検診・健康相談についてはどの項目も 60%以上が普通以上の評価となっており、暮らしやすい北陸圏の特徴が現れている。

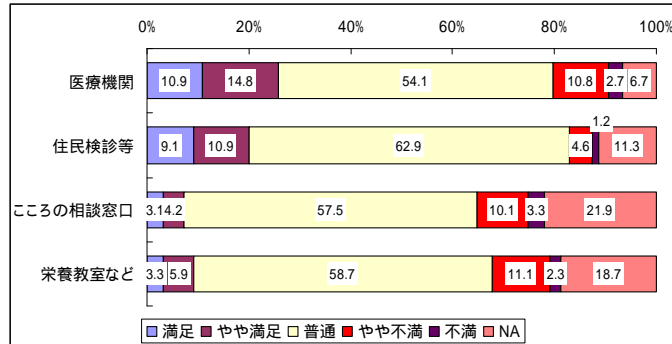


図 4-39 医療・福祉関連（満足度）

文化・スポーツについて

- 文化・スポーツ施設についてはどの項目も 60%以上が普通以上の評価となっており、暮らしやすい北陸圏の特徴が現れている。

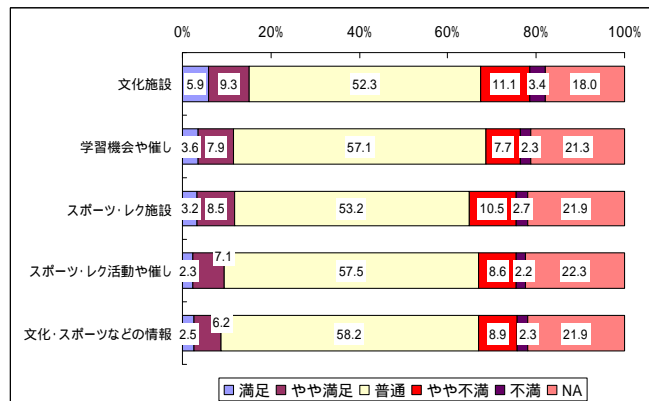


図 4-40 文化・スポーツ（満足度）

地域活動関連について

- 地域の活動については約 70%以上が普通以上の評価をしている一方、地域活動への支援については満足度がやや低く、地域コミュニティ強化への支援策が求められている。

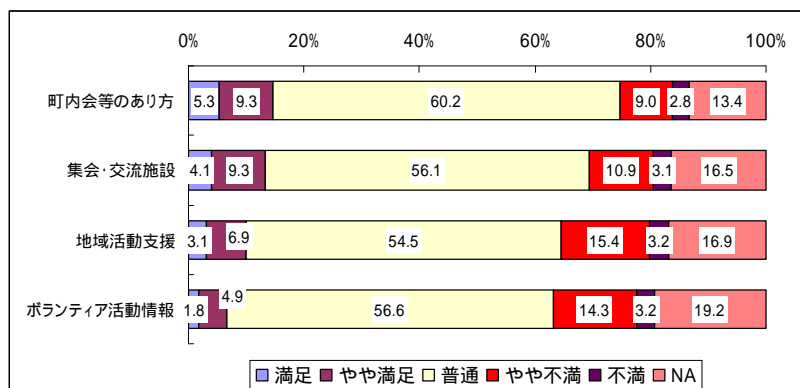


図 4-41 地域活動関連（満足度）

「高齢者生活意識調査」より

行政に関わることについて

- 広報への満足度は約 70%が普通以上の評価をしている一方、行政対話の場や行政サービスについては 60%未満となっており、行政サービスの利便性向上を始めとした開かれた行政が求められている。

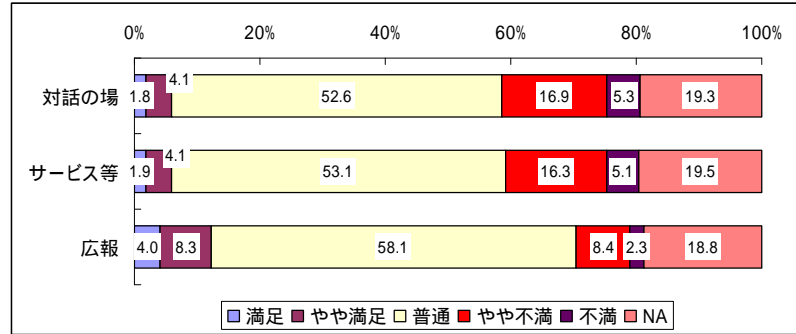


図 4-42 行政に関わること（満足度）

満足と不満の差について

- 満足と不満の差をみると、住宅や医療機関、検診・健康相談についての満足度が高く、公共交通の便利さ、ボランティア情報、行政対話、行政サービスについての満足度は低くなっており、全般的には暮らしやすいものの公共交通機関や行政サービス利便性向上が望まれていることがわかる。

表 4-13 満足と不満の差

		項目	満足計	不満計	満足 - 不満	
+ 10 以上	<快適さ>	住宅の住み良さ	30.0	8.8	21.2	
		<医療・保健・衛生>	医療機関	25.7	13.5	12.2
			住民検診等	20	5.8	14.2
- 10 以上	<便利さ>	公共交通機関	14.7	34.3	-19.6	
	<快適さ>	道路除雪	18.7	38.7	-20.0	
	<地域活動・交流>	ボランティア活動情報	6.7	17.5	-10.8	
	<行政>	対話の場	5.9	22.2	-16.3	
		サービス等	6	21.4	-15.4	

「中山間地高齢化集落生活実態アンケート調査結果 報告書」より

通院の状況について

- 全体では定期的に通院している人が一人以上いる世帯は 8 割に及んでいる。

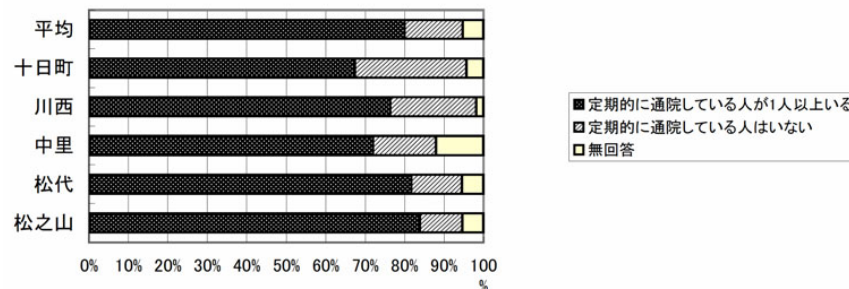


図 4-43 通院の状況

7) 住宅の不都合

住宅の不都合

- 前掲の除雪を家族（身内）で実施している実態と相俟って、住宅の不都合に関する意見としては、除雪・除草が多い。

多くの高齢者は、容易に住宅建替えを実施できない状況であると想定されることから、除雪・除草に対して、人的ネットワークの活用や安価な最先端技術の適用などの対応が必要である。

「高齢者生活意識調査」より

住宅の不都合について

- 不都合なことの中では「除草や除雪などが大変」が32.7%と突出している。
- 一方、36%の人が日常生活を送る上で不都合はないと回答している。

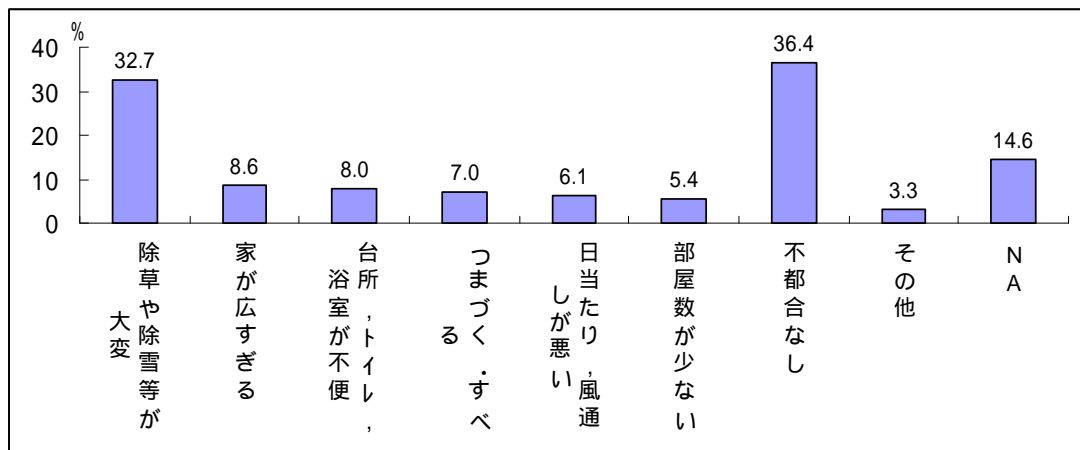


図 4-44 住宅の不都合

8) 行政要望等

住宅の不都合

- 住民ニーズとしては、「公共交通機関の利便性向上」や「医療・保険設備の充実」が高い。
- また、集落活性化の視点からは「コミュニケーションの場」を要望する人も多い。バス、鉄道の公共交通の利便性向上、ICTの活用や巡回医療などによる在宅診療などを積極的に展開する必要がある。

いずれの問題・課題に対しても、解決に向けては、日頃からのコミュニケーションが重要となってくることから、ソフト・ハード両面におけるコミュニケーションの場の創出がポイントとなる。

「高齢者生活意識調査」より

元気な生活を送るための施策要望について

- 医療・保健設備および交通の利便性の充実への要望が特に高い。

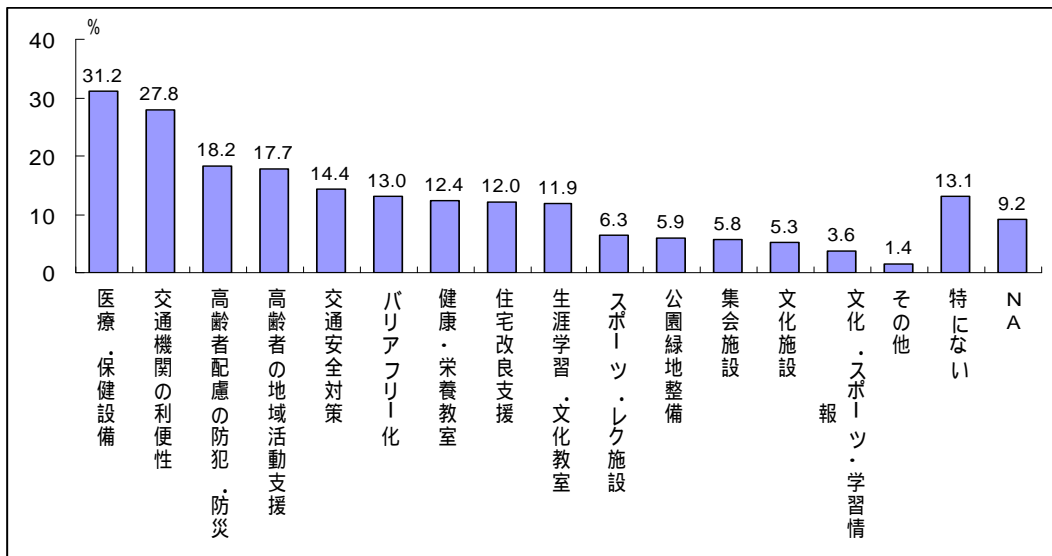


図 4-45 元気な生活を送るための施策要望

「福井の暮らしを良くするためのアンケート調査結果」より

問 1-8 高齢者や障害のある人がより暮らしやすくなるために、これから数年の間にどうしたらよいか、あなたのご希望やご意見をお書きください。
(回答者数：821人)

[主な意見]

- ・ 高齢者、障害者の経済的負担を軽減してほしい。
- ・ 高齢者や障害者への理解促進や意識改革を進めてほしい。
- ・ 高齢者等と近隣の人々のコミュニケーションが必要である。
- ・ ボランティア活動や地域活動など、高齢者等が引きこもらず人前で活躍できる場をつくってほしい。
- ・ 高齢者等が地域の人々とつながりが深まるような場所づくりを進めてほしい。
- ・ 高齢者等が使いやすいように公共交通機関を充実させてほしい。
- ・ 高齢者等が安く、安心して入居できる施設を作してほしい。
- ・ 介護者の育成、負担軽減、労働条件の向上を進めてほしい。
- ・ 高齢者を自宅で介護できるシステムを作ることが望ましい。
- ・ 高齢者との同居推進や、家族間で助け合いができるように指導、教育してほしい。
- ・ まだまだ働ける高齢者が集える場所があるとよい。
- ・ 障害者が働く場所を増やしてほしい。
- ・ バリアフリーの充実や歩道の段差解消を進めてほしい。

「東京大学との共同による集落の現状に関するアンケート調査」より

集落の活性化に必要なことについて

問 21 集落の活性化のためには、何が重要だと考えますか。

(1. 祭やイベントなど地域の魅力づくり 2. 都市部など地域の住民との交流 3. 地域特産品など商品開発、就業の場の整備 4. お年寄りが楽しく集える場の提供 5. バスなど公共交通機関の整備 6. インターネットなど情報通信基盤の整備 7. その他 8. 分からない)

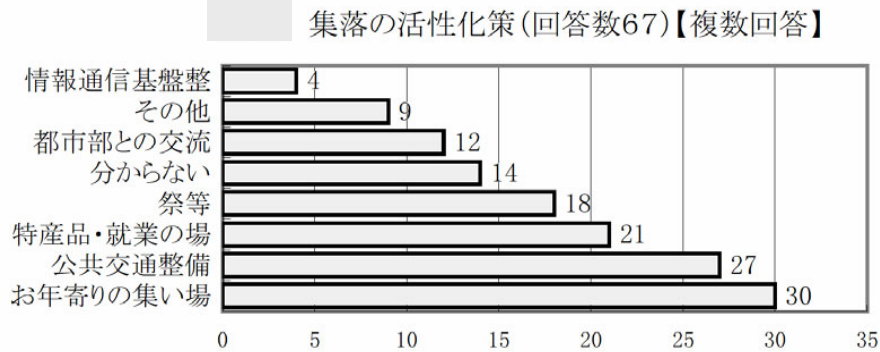


図 4-46 集落の活性化に必要なこと

「中山間地高齢化集落生活実態アンケート調査結果 報告書」より

集落の維持に向けた要望について

- 半数の集落が「買い物、通院、除雪、バス交通など生活維持のための対策」を行政に望んでいる。約3分の1の集落が、「除雪、農作業などのボランティア支援」を望んでおり、3割弱の集落が「都会からの移住者の受け入れ」を、4分の1の集落が「冬期だけの高齢者集合住宅」を望んでいる。なお、「集落移転のための支援」は2割弱の7集落となっている。

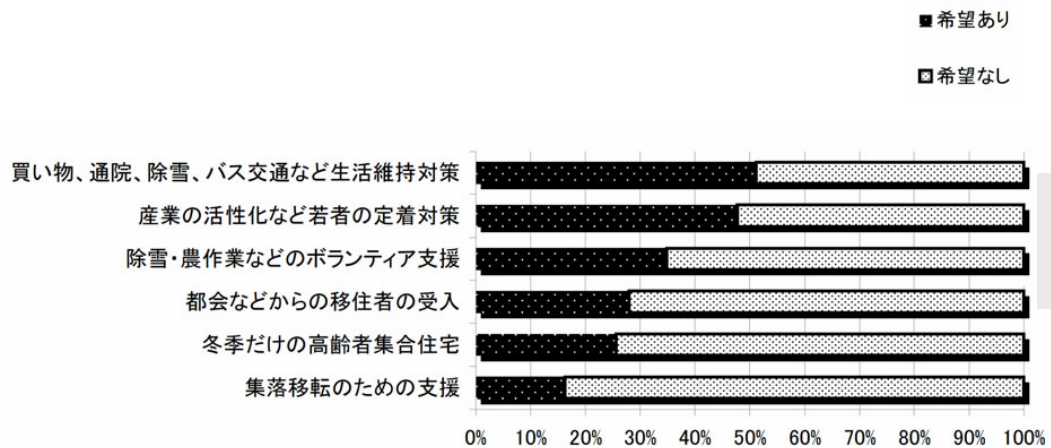


図 4-47 集落の維持に向けた要望

9) 定住意向・理由

定住意向

- 特に、高齢化するほど定住意向が強い。

「新潟県「夢おこし」政策プラン推進のための県民意識調査 報告書」より
定住意向について

- 現在住んでいる地域に「住み続けたい」が 51.5%と過半数を超えた。「どちらかと言えば住み続けたい」(24.0%)は2割強で、両者を合計した「住み続けたい」計は75.5%となり、4分の3を占めている。
- 一方、「他の地域に移りたい」(2.3%)、「どちらかと言えば他の地域に移りたい」(9.7%)を合計した「移りたい」計は1割強(12.0%)となっている。
- なお移転先としては、「県内の他の地域」が49.7%で、「県外」は38.3%となっている。

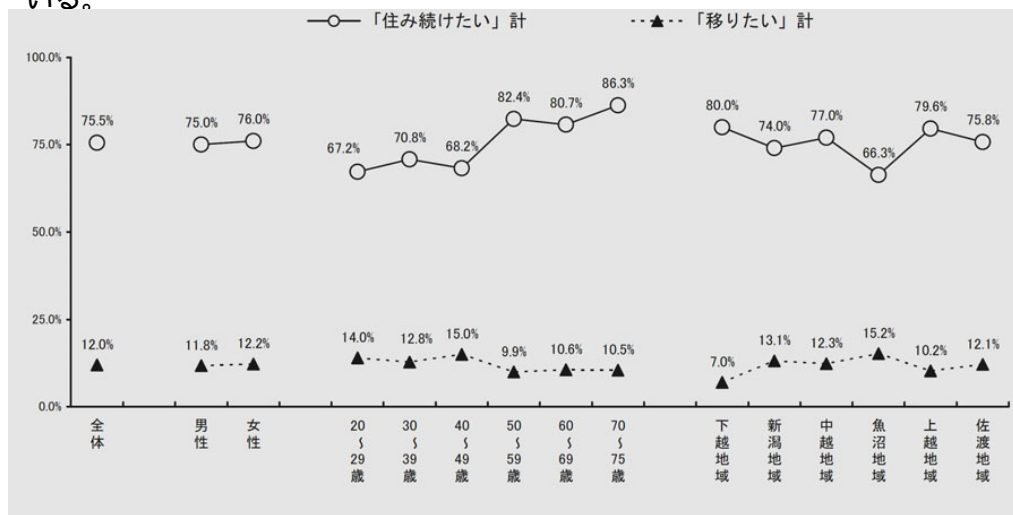


図 4-48 定住意向

移りたい理由について

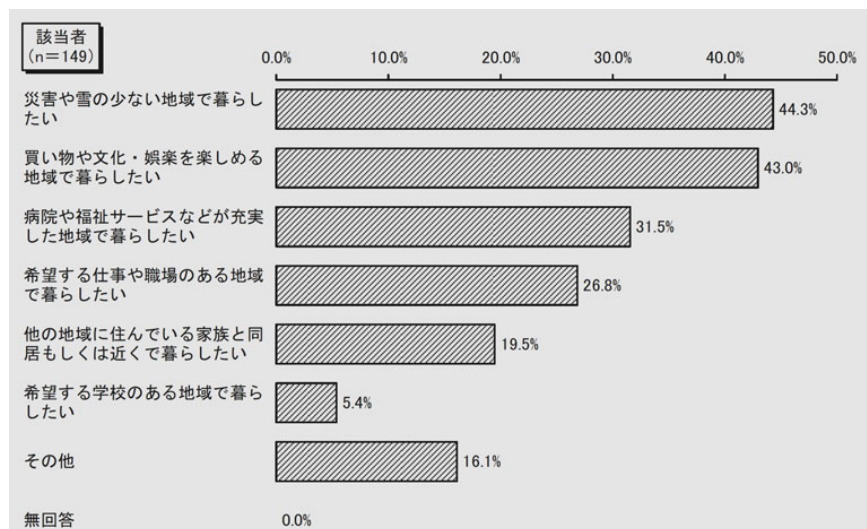


図 4-49 移りたい理由

10) 高齢者の全国的規模での実態、不安等

「高齢者の日常生活に関する意識調査」より

日常生活における満足度について

- 日常生活全般についての満足度をみると、「満足している」が24.6%で、「まあ満足している」57.9%となっており、両方を合わせた「満足(計)」は82.5%となっている。一方、「やや不満である」13.6%と、「不満である」3.8%を合わせた「不満(計)」は17.5%となっている。
- 前回調査(平成11年)と比較すると、「満足(計)」は3.1ポイント低下している。

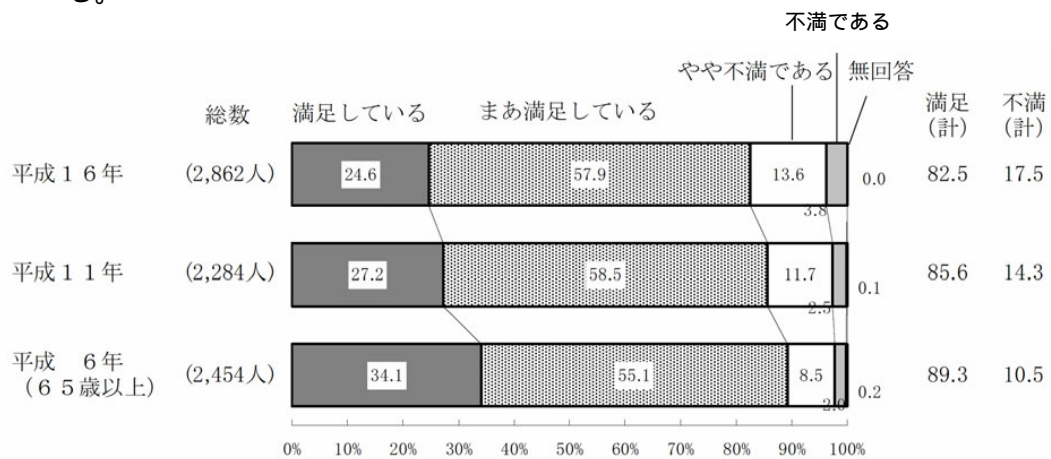


図4-50 日常生活における満足度

将来の日常生活への不安・その理由について

- 将来の自分の日常生活への不安をみると、「多少不安を感じる」が53.8%と過半数を占め最も高く、「とても不安を感じる」14.1%と合わせた「不安を感じる(計)」は67.9%とほぼ3人に2人の割合となっている。一方、「不安は感じない」は32.1%となっている。

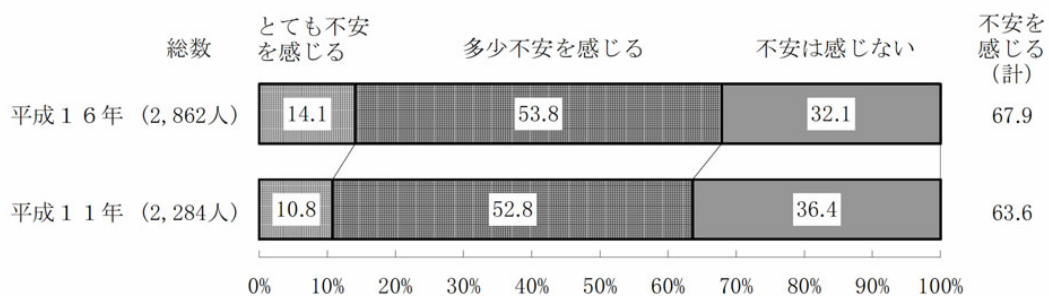


図4-51 将来の日常生活への不安

- 将来に不安を感じる人の、不安を感じる理由をみると、「自分や配偶者の健康や病気のこと」が71.7%と最も高く、次いで「自分や配偶者が寝たきりや身体が不自由になり介護が必要な状態になること」51.8%、「生活のための収入のこと」31.3%、「頼れる人がいなくなり一人きりの暮らしになること」19.1%等の順となっている。

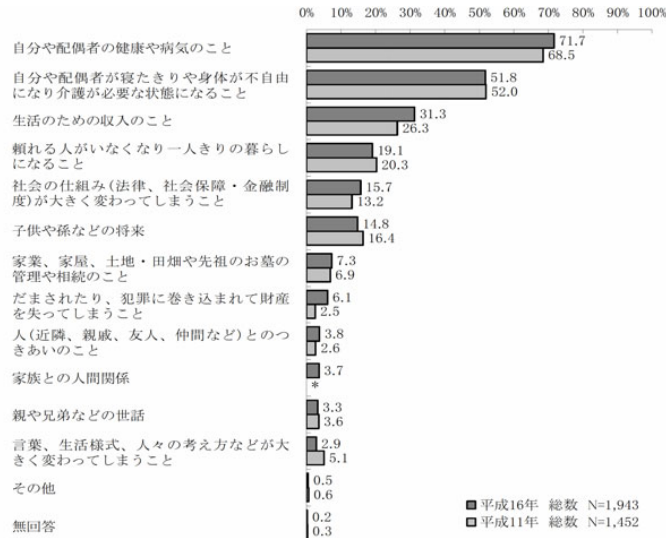


図 4-52 不安を感じる理由

日々の暮らしに関し社会として重点を置くべきものについて

- 本格的な高齢化社会の到来に備え、日々の暮らしに関し、社会として重点を置くべき対策をみると、「老後を安心して生活できるような収入の保障」が52.6%と最も高く、次いで「介護サービスが必要な時に利用できる体制の整備」が33.8%、「高齢者の体が不自由になっても生活できる住宅の整備」28.2%、「高齢者の外出・利用に配慮した移動手段・公共交通の整備を含む高齢者に配慮した街づくりの推進」28.1%等の順となっている。

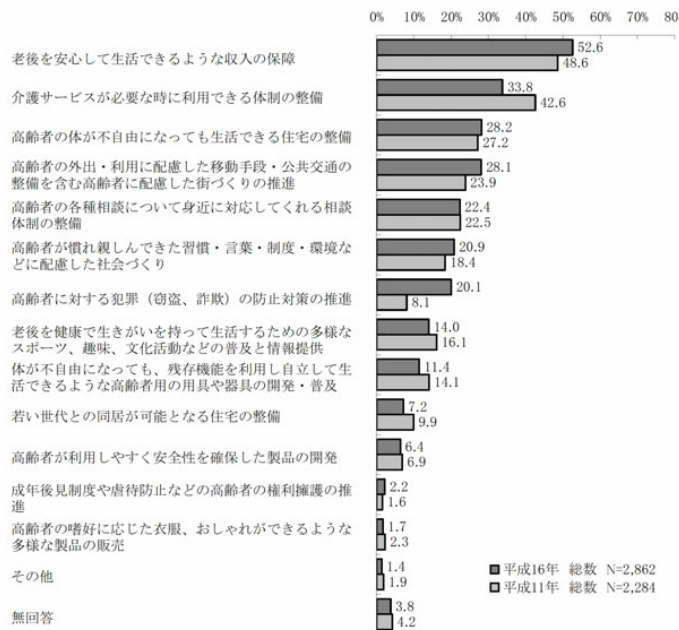


図 4-53 日々の暮らしに関し社会として重点を置くべきもの

「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査」より

外出の状況について

- 外出状況についてみると、「ほとんど毎日外出する」が59.7%と6割近くを占め、「ときどき外出する」が32.9%、「ほとんど外出しない」が7.3%となっている。

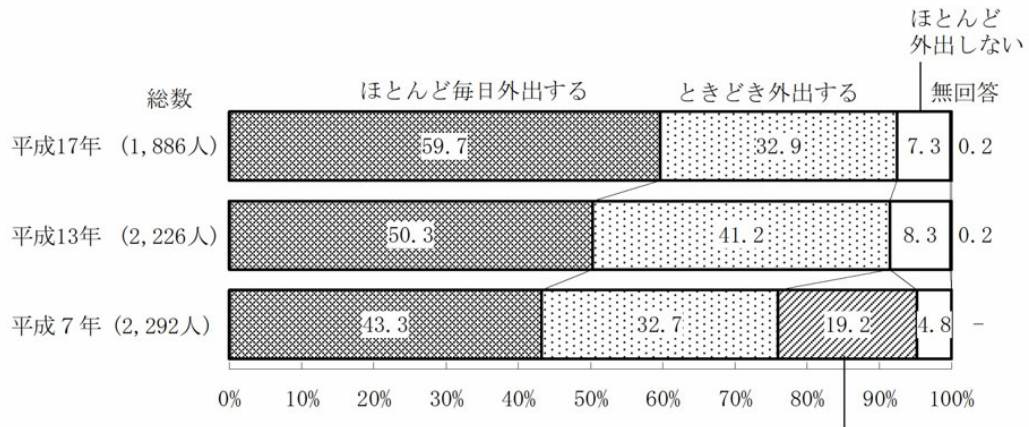
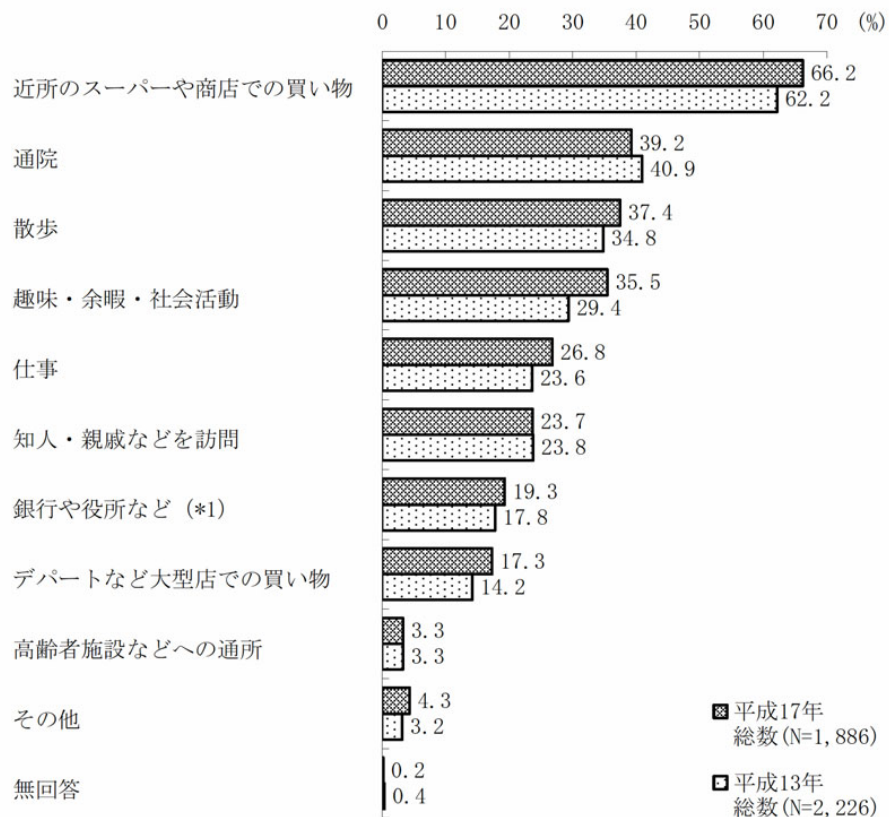


図 4-54 外出状況

よく出かける時について

- 「近所のスーパーや商店での買物」が66.2%と最も高く、次いで、「通院」が39.2%、「散歩」が37.4%、「趣味・余暇・社会活動」が35.5%、「仕事」が26.8%、「知人・親戚などを訪問」が23.7%の順となっている。



(*1) 平成13年は「銀行や役所など私用」

図 4-55 よく出かける時

外出手段について

- 外出に利用する手段についてみると、「徒歩」が57.7%と最も高く、次いで、「自分で運転する自動車」が38.9%、「自転車」が30.2%、「家族などの運転する自動車」が23.9%、「バス」が18.8%の順となっている。

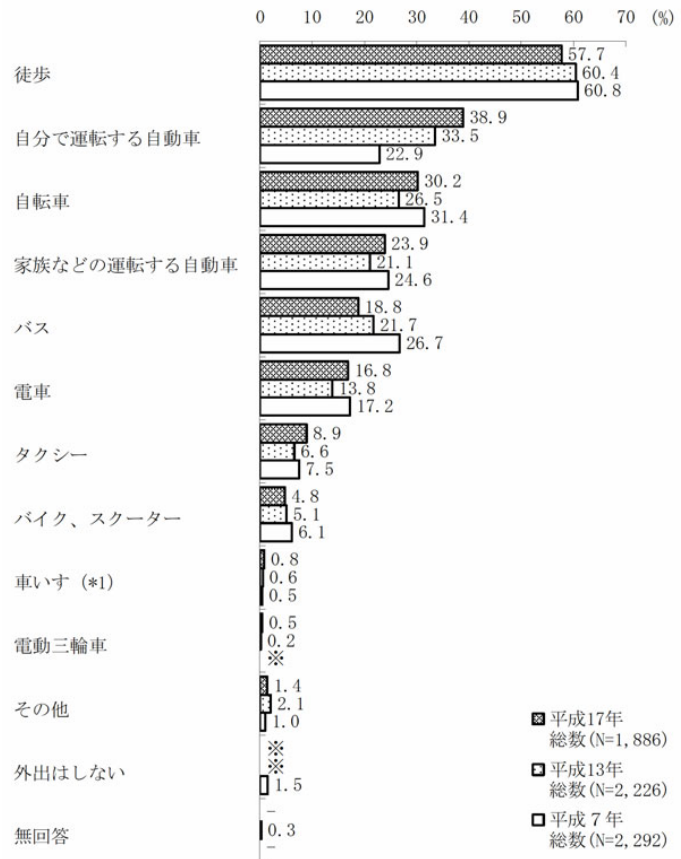


図 4-56 外出手段

地域の不便な点について

- 現在、住んでいる地域で不便に思ったり、気になったりすることについて、「日常の買い物に不便」が16.6%、「医院や病院への通院に不便」が10.0%、「交通事故にあいそうで心配」が9.2%、「交通機関が高齢者には使いにくい、または整備されていない」が8.4%などとなっているが、「特にない」が57.3%と過半数を占めている。

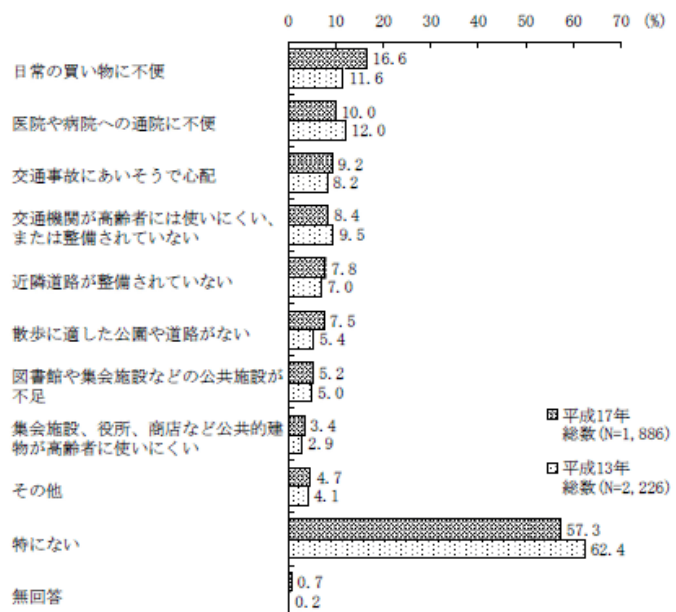


図 4-57 地域の不便な点